

論衡

衆參代表質問

岸田文雄首相の国会懇親会は今に始まった」とではないが、今臨時国会での姿勢は目に余ると言わざるも仕方がないだろ。所信表明演説に対する衆議院西院の代表質問では、憲法の所得税減税を巡り、「正直な議論が開始されていない」と具体的答弁をしなかつた。

首相は臨時国会召集日の20日に与党幹部と協議。その後、記者団に「所得税減税も含めて党との検討を指示した」と明言した。ところが23日の所信表明演説では「国民への還元」と繰り

返すのみ——所得税減税には一切触れなかつた。代表質問で野党議員から「大事な」のはテレビではなく国会で議論すべきだ、「所得減税は行つのが、一年のみか、恒久なのか。国民は分からぬ」など抗議

非課税世帯には7万円の給付」などと検討内容が漏れ伝わった。しかし国会は蚊帳の外だ。どうにか物価高騰などに対処する経済対策は、衆参の予算委員会が終わった後の11月2日に閣議を形骸化させた国会監視議は直ちに改めるべきだ。

これがした姿勢は少子化対策の財源確保でもあった。

「6月の骨太方針までに経

追及を受けたものの、首  
は「具体化に向けた正式  
具体的な指示は26日の政府  
立政政策懇談会で行う」と  
いふ。その前の方針表明は  
「の間に、政府与党か  
は所得税減税などに關し  
る必要があると審議し

議決定する予定といふ。  
野党に吟味や反論の機會  
がないまま重要政策を決め  
て議論につなぐつも  
りなのか。国会で野党と議  
論するのを意図的に回避し  
てこむとしか思えない。所  
信表明演説で「職を賭して  
取り組む覚悟だ」と強調し  
てこむことにも予想倍増の大  
野党に示す」としたが、6月  
には「新たな支援金制度は  
年末に結論を出す」などト  
ーンタウン。今回の代表  
官閣でこれを批判されると  
首相は「財源の基本骨格は  
既に明らかにした。先送り  
との指摘は当たりない」と

## 首相の国会軽視目に余る

具体的財源の積み上げもなく、達成時期の見通しも明らかにしていない。「年末に結論」やは今国会は閉じた後である。またも審議の俎上に載らないままになる。防衛費増額の財源確保策も同様だ。いったんは昨年末「2024年以降の適切な時期」に法人税や所得税などの増税を実施すると決めながら、今回の代表質問で首相は「景気や算上の動向を踏まえて判断する」とけむに答えた。

首相の決意は変わったのか。国民はそれを知りたいだけだ。(このままでは首相自身が政治を空洞化させてくると嘆かれるを得ない。

2023.10.27